

菟田野小だより「桜梅桃李」

No.8

令和4年 7月8日(金)

(<http://www.utano-e.ed.city.uda.nara.jp/>)

野菜育てて 願う平和

宇陀 宇陀市立菟田野小学校の6年生が、校内の畑で育てた野菜を販売した収益をウクライナに寄付する取り組みを始めた。5月には学校林で収穫したタケノコの売り上げ1万5930円を、日本赤十字社を通じて送った。子どもらは「野

菟田野小

菜をどんどん収穫し、一円でも多く寄付したい」と目を輝かせる。

平和教育授業の一環で、生徒からの発案を受けて6年生24人が始めた。収穫した野菜は、同校と交流があるスーパーマーケット「デリーショップタナカ」（同市菟田野岩崎）で販売している。

野菜は、授業の合間の時間を使って栽培。6月21日にはキュウリやピーマン、シソなどを初めて収穫した。あ

スーパーの販売コーナーに野菜を並べる児童たち—宇陀市で

販売収益ウクライナへ寄付

いにくの雨だったが、児童らは傘を差しながら、「わあ、大きい」「いっぱい取れた」などと笑顔を見せていた。取れた野菜は袋詰めにし、学校から1.5キロほど離れた「タナカ」まで歩いて運んだ。

店は入り口近くに同校の特設販売コーナーを用意。児童らは自分たちの思いを買い物客に知ってもらおうと、「戦争に巻き込まれた人たちのために募金することになりました」などと手書きのメッセージも添えた。店による

と、タケノコを販売した際も1日で売り切れるほど好評だったという。

今後も野菜を収穫することに、店に届ける予定。泉岡一心さん(11)は「休まず水やりをした。立派な野菜が取れてよかった」とうれしそう。田村万桜さん(11)も「(ウクライナの人々が)無事でいてほしいとの願いを込めた」。長崎武虎さん(11)は「自分たちの思いがウクライナの人に届いてほしい」と話していた。【広瀬晃子】



校内の畑で野菜を収穫する児童たち—菟田野小で

(7月3日付 毎日新聞)

6年生は、この4月より学校の敷地内で採れた農作物を地元のスーパーに置いていただき、その収益金をウクライナ支援の義援金として送る取組をしています。上の写真は、その取組が毎日新聞に掲載された時の記事です(奈良新聞にも後日掲載予定です)。

これは、ロシアの軍事侵攻を受けて苦難に立ち向かっているウクライナの現状を学び、

「自分たちが平和のためにできることはなんだろう」と、担任といっしょになって考えた活動です。

6年生は春はタケノコ、夏はきゅうり、ししとう、なす、ピーマンなどを栽培収穫して出荷？しました(冬の野菜も計画中です)。子どもたちは、水やりや収穫、包装、値札付けなどを自分たちで役割分担して行っています。



この取組は、地元スーパーの厚意によるご協力はもちろんのこと、趣旨に賛同して買って下さった地元地域の方々のあたたかい思いがあればこそです。

この他にも、地域の方が様々な形で小学校の子どもたちの活動のお手伝いをして下さっています。地域が子どもたちを支え見守り、その成長を応援してくださっています。地域とともにある学校のよさを感じます。感謝の思いでいっぱいです。

これからも小学校や子どもたちに対するお力添え、どうぞよろしくお願いいたします。

「ふるさとほ 夏がすぎると 次も夏」(アフリカユウ)

地域のボランティア「お話玉手箱」のみなさんによるお話の会(読み聞かせ)。今年は6月27日(月)に実施しました。

合計8名の方に来ていただきました。「かえる」「かさ」など梅雨の時期に合わせたお話が多く、また絵本あり、紙芝居あり、素話ありとバラエティに富んだ内容でした。



読み聞かせは、本を読むのが苦手な子も集中して聞いています。7月には先生方による読み聞かせも予定しています。